

授業科目 微生物学実習

| | | | | |
|---|------------------------------|--|-----------|----------------------|
| 【担当教員名】 尾崎 京子 他 | 対象学年 | 3 | 対象学科 | 臨床 |
| | 開講時期 | 後期 | 必修選択 | 必修 |
| | 単位数 | 1 | 時間数 | 45 |
| 【ディプロマポリシーとの関連性】 | | | | |
| 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 |
| ◎ | ○ | ○ | ○ | ◎ |
| 【概要・一般目標：GI0】 ・微生物の生態を理解する。 ・病原性微生物を安全に扱うための手技と倫理観を習得する。 | | | | |
| 【学習目標・行動目標：SB0】 1. 適切な消毒・滅菌処理を行う。 2. 無菌操作を確実に習得する。 3. グラム染色標本の作製と顕微鏡観察を実施する。 4. 各種細菌にふさわしい培養・検査方法を列挙し、実践する。 5. 薬剤感受性検査の結果から、各種細菌の抗菌薬に対する有効性について説明する。 6. 確認試験の結果から菌種の推定・同定ができる。 7. 各種細菌と感染症の関連について述べる。 8. 検査材料別に適した検査手順を進めることができる。 | | | | |
| 回数 | 授業計画・学習の主題 | | SB0 番号 | 学習方法・学習課題 備考・担当教員 |
| 1. 2 | 実習室の使い方、消毒と滅菌方法、機器の使用法、培地作成法 | | 1 | 講義・実習 |
| 3. 4 | 無菌操作方法、分離培養法、確認培地の接種法 | | 1, 2 | 講義・実習 |
| 5. 6 | コロニー観察、細菌染色と顕微鏡観察、正常細菌叢の判定 | | 3-4 | 講義・実習 |
| 7. 8 | グラム陽性球菌の同定 | | 3-6 | 講義・実習 |
| 9. 10 | グラム陰性球菌の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 11. 12 | 腸内細菌科の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 13. 14 | ビブリオ属の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 15. 16 | ブドウ糖非発酵グラム陰性桿菌の同定、ヘモフィルス属の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 17. 18 | レジオネラ属の同定、カンピロバクター属の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 19. 20 | 抗酸菌検査、グラム陽性桿菌の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 21. 22 | 嫌気性菌の同定、真菌の同定 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 23 | 薬剤感受性検査、β-ラクタマーゼの検査 | | 3-8 | 講義・実習 |
| 【使用図書】 | <書名> | <著者名> | <発行所> | <発行年・価格 他> |
| 教科書 (必ず購入する書籍) | 微生物検査学 実習書 | 日本臨床検査学教育協議会 | 医歯薬出版 | 2012・3,600円＋税 |
| 参考書 | 臨床微生物検査 ハンドブック | 小栗豊子 | 三輪書店 | 2011・5,000円＋税 |
| その他の資料 | | | | |
| 【評価方法】 ・レポート：10%（目的、方法、結果、考察、感染症との関連、検査材料との関連について記載されているかどうかで評価する。欠席した場合のレポート提出は評価対象としない。） ・実技試験：10%（基本的技術の習得の度合い、確認培地を正しく判定できるかどうかで評価する） ・定期試験：80% | | 【履修上の留意点】 ・実習中の感染防止のため、実習における注意事項を良く守り、無菌操作に習熟することがなにより大切です。 ・実習は実習衣（白衣、白長ズボン）、実習靴、予防具（キャップ、マスク）を着用して貰います。 ・実習中、指導教員の指示に従わない場合は実習を認めないことがあります。 ・実習室内への携帯電話（スマホを含む）やPCの持ち込みは禁止します。 ・前期に行った講義内容を実践することが後期の実習です。講義内容の理解を深め、技能を確実に身につけて下さい。 ・参考書は図書館に配備します。実習時間の不足のため、臨床検査材料の実習がほとんどできません。参考書で補ってください。 | | |